赤岩尾根から鹿島槍ヶ岳（五月山行記）

2014 年 5 月 3 日～4 日

八田　義一

昨年（2013 年）5 月、僕は自分の古希の記念として赤岩尾根から鹿島槍に登ろうと思った。もう一度北アルプスの雪の頂きに立ちたいという思いが募っていたのだ。そして鹿島槍への登り応えのあるルートとして赤岩尾根を選んだ。相棒は後輩の中村正男君だ。彼は長らく一人で雪の富士山（積雪期・残雪期）に登っており、そのほかあちこちの山を一人で登り続けており力量十分のパートナーだ。卒業以来、四十数年間一緒に山へ行ってないが気の合う仲間の一人だからでもある。彼も二つ返事で OK した。鹿島槍に登るべく 3 月、4 月と摩耶・六甲山で十分な体力トレーニングを積み、大枚はたいて新しく雪山用の登山靴も買い、山小屋の予約もして用意万端、いざ出発というところだった。ところが、出発 2 日前の 4 月 25 日、突如激しい腰痛に襲われ、とても山どころではない事態となった。あえなく計画断念。僕は天に向かって嘆きの声をあげた。文字通りのドタキャンを喰らわせた中村君には真に相すまぬことをした。

それから一年、雪の頂きへの思い新たに捲土重来、再度中村と鹿島槍を目指すことになった。出発の 2 日前、彼からメールが来た。“今日の冷池山荘のブログ見ましたか。赤岩尾根の空撮写真が出てます。すごい迫力！”と。早速パソコンを開いて見てみると、なるほど赤岩尾根上部は階段状のすごいナイフリッジと最後のトラバースの斜面がすごい。左の写真がそれだ。これ、登れるかな、と正直ちょっとビビった。気を取り直してモニターに映っている赤岩尾根上部の写真を指でストレッチして拡大し仔細に検討した結果、これは行ける、問題は最後のトラバースをしっかり乗り切ることだと判断して、計画通り決行することにした。

ピークは爺ヶ岳北峰。日の当たった尾根が赤岩尾根上部。階段状のナイフリッジと最後のトラバースの斜面がくっきり。（冷池山荘ブログより）

前夜信濃大町で合流した僕達は、5 月 3 日朝、タクシーで大谷原に向かった。20 分ほどで到着し、身支度を整えて 6 時 25 分大谷原を出発した。西俣出合までの林道はゆるやかで空は晴れ、早朝の大気も心地良く、ゆっくり歩いて行くと体の方も自然に調子が出て来た。1 時間で西俣出合に着いた。西沢からの大きなデブリはまだ出ておらず赤岩尾根末端へは沢を渡れないので取り付けない。7 時 40 分、堰堤に設けられたトンネルをくぐって夏道から取り付く。すぐに急登が始まるが先行する大きな荷物のパーティーの後からゆっくり行くことにした。高千穂平までは急登が続くと聞いていたが、まことに聞きしに勝る急登だ。道はおおむね夏道が出ているが段々雪に覆われた道となってきた。雪の付いた道は結構ルート判断が要る。始めは順調に登っていたが 4 ピッチほど行った所から急にバテ気味になってきた。これはやばいと行動食を食べ、水を飲むとなんとか持ちこたえた。他のパーティーには先に行ってもらう。樹林が少なくなってまもなく高千穂平と思われる所でルートは完全に雪の斜面となってきた。アイゼンを履く。急斜面につけられたトレースをゆっくりゆっくり登ると漸く中村の声がした。“着きましたよ”。高千穂平 12 時 15 分着だ。西俣出合から 4 時間半で着いた。急登を登り切ったので一安心だ。空は曇って来たが大崩れする心配はない。先行していた大きな荷物のパーティーはまだ昼だというのに早々と

赤岩尾根より西沢を見る。赤岩尾根下部はこんな傾斜だ。

北股本谷の向こうに東尾根の核心部を見る。

ここでテントを張っていた。ここで昼飯を食べ暫く岩の上に身を横たえて休んだ。

12 時 45 分、高千穂平を出発。いよいよこれから尾根の上部核心部に向かう。しっかりと昼飯を食べて大休止したおかげで体がシャンとしてきた。中村が“さっきまでより調子が出てきましたね”と言う。その通りだ。快調に登れる。次第に尾根が細くなり、夏道混じりの道も次第に雪稜となってきた。両側が切れ落ちた稜線の右側、左側と雪を辿って登って行く。

尾根上部へ向かう中村

“ここからはヤバイですよ”と中村の声。“気ぃ引き締めて行こうぜ”と僕。細いリッジを慎重に登って行く。周囲はガスってきた。漸く最後のトラバースの斜面の手前まで来た。ここまで高千穂平から 2 時間だ。尾根上にザックをおろすスペースがあったので前を行く中村に声をかける。“ここで 1 ピッチ入れよう。あとは一気に行こう”。先行する単独行者がトラバースして行くが次第にガスの中に姿が消えて行った。

14 時 50 分、トラバース開始。先頭の中村が慎重に着実に進んで行く。中村と距離を取って斜面に足を踏み入れた。一歩一歩トレースを辿っていく。ガスが濃くなり辺りを隠すが、下を見ると奈落の底へ吸い込まれそうになるので下を見ずトレースだけを見て進む。時々立ち止まって上を見る。雪崩の心配はない。漸く斜面を渡り切って向う側のリッジに出た。その向こうに続くもう一つの斜面をトラバースして冷乗越に出た。時に 15 時 5 分。緊張の 15 分間だった。中村と顔を見合わせて思わず“怖かったー”。やっと赤岩尾根を登り切った。登り応え十分だった。

稜線に出ると風が強まり雨も降って来た。樹林帯の中の雪道を緊張感から解放されたせいか僕はヨレヨレになって冷池山荘に辿り着いた。アイゼンをはずし、二人してガッチリ握手。“やりましたねえ”。西俣出合から 7 時間 45 分で冷池山荘に着いた。

5 月 4 日、快晴。山荘の窓から見る劔岳がモルゲンロートに薄く染まっていた。5 時 55 分、冷池山荘を出、鹿島槍頂上に向かう。昨日午後の天候悪化は前線の通過による一時的なもので夕方からはバンバン晴れてきた。今朝も抜けるような青空だ。稜線に出ると視界が開け、

モルゲンロートに薄く染まる劔岳

黒部の谷の向こうに雪を纏った劔岳が巨大な城塞のように聳えている。劔立山連峰から毛勝三山まで雪の峰々が連なっている。そうだ、この光景が見たかったのだ。担ぎ上げてきたニコン FM3 を取出して写真を撮る。素手でつかんだカメラだが、たちまち指が硬直してきてあわてて手をポケットに入れて温めた。

始めは雪道だったが布引山に差し掛かる所から夏道が出て来た。写真を撮りながらゆっくりと登って行った。次第に暑くなってきた。だが、布引山を過ぎて稜線に出たとたん冷たく強い黒部の風にさらされた。ここから山頂までは吹きさらしだ。ずっと夏道が続いたが、山頂直下から再び雪となった。雪を蹴り込んでもう一頑張りし、8 時 35 分、鹿島槍南峰（主峰）の雪に覆われた広い頂上に着いた。山荘から 2 時間 40 分だ。もう一度北アルプスの雪の頂きに立ちたいという願望を 71 歳で達成することが出来た。中村とがっちり握手。彼のおかげでここまで来れた。山頂から 360 度の展望を満喫する。黒部の谷の向こうに毛勝三山から劔立山連峰、北方には五竜から白馬まで後立山の雪の峰々、南方遥か彼方に槍穂高と青空の下にこれ以上ない眺望だ。あーあ、やっぱり雪の山はええなあとつくづく思った。山頂からは登って来た赤岩尾根の全貌が見える。いっぱい写真を撮って頂上を後にした。

鹿島槍頂上にて　　上：八田　　下：中村

冷池山荘に戻って休憩の後、11 時 40 分、爺ヶ岳に向かう。爺ヶ岳南峰からその南尾根を下るのだ。次第に空は曇って来たが天気が崩れる心配はない。13 時 48 分南峰に着いた。中村はすぐに下って行ったが僕は頂上に残ってフィルムを使いきるまで写真を撮る。曇り空の下、鹿島槍の堂々たる山容が目を引く。20 分ほど写真を撮って 14 時 10 分、尾根を降りだ

赤岩尾根全景

した。それからは柏原新道登山口まで1300 メートル余りの長い長い下りだった。ジャンクションピークからの樹林の中の道はわかりづらい。中村が懸命にルートを捜しながら先行する。疲れて足が棒のようになった僕はそのあとを遅れながらゆっくりとついて行くしかなかった。70 を超えた身には登りよりもずっとずっとつらい降りだった。18 時丁度、やっと登山口に着いた。鹿島槍の雪の頂きへの山行は無事終わった。

爺ヶ岳南峰より鹿島槍ヶ岳を振り返る